



山間部にあるゴルカ地区の村に栄養強化ビスケットを届けました。

©WFP/Marco Frattini

ネパール大地震 緊急支援

4月25日、ネパールで大地震が発生し、約800万人が被災し、8,000人以上が亡くなりました。国連WFPは約50年前よりネパールで食糧支援を行っていましたが、現地に職員を追加派遣し、地震被災者への緊急支援に取り組んでいます。

190万人への食糧支援

被災者の多くは零細農家で、収穫したばかりの食糧を大地震で失いました。現地の家庭では食糧の備蓄が底を突き、さらに5月12日に大きな余震がネパールを襲ったこともあり、支援の必要性が増えています。

国連WFPはネパール政府よりアクセスが困難な山間部での食糧支援の要請を受け、地震発生の日から、被害の大きかった7地区で10日分の米10キロの配布を開始。5月31日までに、190万人以上に食糧を配布しました。支援は第2段階に入り、9地区で115万人に米や豆など20日分の食糧を配布するほか、商業活動が回復した地域では、食糧を購入するための現金を配布します。子どもや妊婦などには、栄養不良を防ぐための栄養強化食品を配布します。



大雨の中、ヘリコプターで米を届けました。

©WFP/Zoie Jones



国連WFPが提供した栄養強化ビスケットを食べる男の子。

©WFP/Marco Frattini

食糧輸送にはヘリコプターやトラックを使っていますが、険しい山の地形や地すべり、落石、6月からの雨期の到来などにより困難を極めています。高山地域へは、地元のポーター最大2万人やラバが徒歩で食糧を運搬します。これは、観光業の落ち込みで仕事を失ったポーターの雇用対策にもなり、また登山道の修復にもつながります。

様々な支援団体を支える物流支援

国連 WFP は支援の世界における「物流のリーダー」として、様々な支援団体に物流サービスを提供する活動を率いています。この活動ではこれまでに、国境なき医師団など様々な支援団体のスタッフや救援物資を被災地へ運んできました。また、カトマンズの国際空港で、救援物資の受け入れと被災地への発送を行う物流拠点を運営するほか、被災地のあちこちに物流拠点を設置しました。5月14日までに45団体の救援物資1,750トンを被災地に発送するサポート業務を行いました。カトマンズの空港の物流拠点は、ネパール政府と国連 WFP が防災の一環として計画を進め、今年3月に完成したばかりでした。



支援団体に情報通信環境を提供

また、国連 WFP は「情報通信のリーダー」も務めており、連携する通信会社などと共にインターネットなどの情報通信網を整備し、140以上の支援団体に提供しています。

資金不足

国連 WFP はネパールでの緊急食糧支援におよそ140億円、さらに支援諸団体の活動を支える物流や情報通信サービスを提供するために40億円を必要としています。これまでに日本などから寄付金を提供していただいたものの、5月24日現在で必要額の17%しか集まっておらず、一層のご支援を必要としています。皆様温かいご支援をよろしくお願いいたします。

大使たちからのメッセージ

知花くらら 国連 WFP 日本大使



ネパール大地震のために日常を奪われた人々が、この瞬間も苦しんでいます。インフラが滞り、混乱が起き、生活がストップしています。安全に、そしてお腹を空かせることなく、今、この困難に立ち向かえるように。みなさまの温かいご支援を、どうぞ宜しくお願い致します。

竹下景子 国連 WFP 協会親善大使



先のネパール地震で、国連 WFP は食糧の緊急支援とともに、他の支援団体の人や物資の輸送もサポートしています。被災地に最初に入るのが国連 WFP だからです。食べることは生命をつなぎ未来を創ること。引き続き、ご理解とご協力をお願いします。

三浦雄一郎 国連 WFP 協会親善大使



東日本大震災のとき、ネパールの人たちは心温まる大きな支援を私たちに下さいました。今こそ、こんなときこそ、私達の心からのサポートをしてあげようじゃないですか！皆さまからの御支援を心よりお願い申し上げます。

ご寄付はこちらから

インターネットで

www.wfp.org/jp

WFP

検索

銀行から

三菱東京 UFJ 銀行 本店 (店番 001)

口座種類・番号：普通 0887110

口座名：トクヒ) コクレン WFP キョウカイ 【手数料無料】

※領収書発行及び使途指定は、フリーダイヤルまでご連絡下さい。

※三菱東京 UFJ 銀行本店からの振込みは、振込手数料が無料になります。

ゆうちょ銀行

口座番号：00290-8-37418

加入者名：国連 WFP 協会

※通信欄に「ネパール地震」とご記入下さい。

※ゆうちょ銀行備え付けの払込用紙をご利用下さい。
(手数料がかかります。)

お電話で

クレジットカードによる寄付を承っております。

0120-496-819

通話料
無料

受付時間 9:00-18:00 (年中無休)

一石二鳥！地産地消の学校給食プログラム



©WFP/Ida Cirma

最近、国連 WFP が提供する学校給食の食材として地元産の農産物を使う「地産地消」の取り組みが増えています。これには一石二鳥の効果があり、地元で採れた農産物が子どもたちに教育の機会を与え、また地元の農業振興にもつながっています。

エチオピアのハンジャ・チャファ小学校では、学校から半径2、3キロの地域で農家が育てた作物が給食に使われています。地元産のいんげん豆とトウモロコシの粉、油、塩から作られたおかゆが子どもたちのおなかを満たします。

生徒のマルコス君は、「家では薄いパンしか食べ物がなくしておなかが空くけど、給食が食べられてとても幸せだよ！」と語ります。学校では栄養に関する教育も行われています。

国連 WFP は、地元の小規模農家で構成される農業組合から給食用の食材を購入しています。小規模農家はそれまでは不利な条件で農作物を売らざるを得ませんでした。国連 WFP が適正な値段で継続的に作物を買うことで、地元の農家（特に女性）の収入が増えました。また、国連 WFP の姉妹機関である国連食糧農業機関（FAO）が農業研修を提供し、能力向上を図っています。

このような地産地消の給食の取り組みは、ホンジュラスやマラウイ、モザンビークなどでも行われ、拡大しています。

WFPウォーク・ザ・ワールド開催～過去最多の4,212名が参加



5月24日（日）、今年で10回目となる「WFP ウォーク・ザ・ワールド」を横浜みなとみらいで開催しました。

WFP ウォーク・ザ・ワールドは子どもたちの飢餓をなくすためのチャリティーウォークで、参加費の一部は国連 WFP の「学校給食プログラム」に役立てられます。参加者数は過去最多の4,212名にのぼり、募金額は計401万1,200円になりました。これによりおよそ13万人の子どもたちに給食を届けることができます。

ゲストの荻原健司さん（スキー・ノルディック複合オリンピック金メダリスト）、荻原次晴さん（同長野オリンピック日本代表）、三浦豪太さん（プロスキーヤー／国連 WFP 協会顧問）や、各国大使の方々、多数の企業・団体の方々、子ども連れの家族など多くの参加者が、5km もしくは10km のコースを歩きました。



スタート地点。子どもたちに給食を届けようとウォークを開始。



天気か心配されましたが晴れ間ものぞきウォーキング日和となりました。



ゴールで参加者を迎える荻原次晴さん、三浦豪太さん、荻原健司さん。（左から）

今年は新たにクイズラリーや記念写真コーナーを設け、より多くの方に子どもたちの飢餓問題について考えていただくと共に、学校給食支援の輪を広げることができました。当日の様子は専用ウェブサイト (www.walktheworld.jp) でご覧いただけます。

参加者の方々をはじめ、後援・協賛・協力いただいた企業・団体の皆様、当日の運営を支えてくださった60名以上のボランティアの皆様、誠にありがとうございました。



日清食品グループは、2005年から評議員として、国連 WFP の活動を支援してきました。その支援活動のひとつが「レッドカップキャンペーン」への参加です。2012年から「チキンラーメン」にキャンペーンマークである赤いカップをつけて販売し、その売上の一部を国連 WFP に寄付しています。2014年度は100万人以上の子どもたちに学校給食を届けることができました。

また、2015年4月からは、日清食品グループの社会貢献活動である「百福士(ひゃくふくし)プロジェクト」の第13弾として、「めざせ1トン減量!プロジェクト」に従業員413名が自主的に参加し実施しています。同プロジェクトは、参加者が4月から9月末までの間に減量した総体重量を会社が1kg 5,000円で換算し、国連 WFP の学校給食プログラムに寄付するという内容です。参加者自身が健康になるとともに、飢餓に苦しむ子どもたちも救える取り組みです。

弊社の創業者精神の一つである「食足世平(食足りて世は平らか)」のもと、参加者一丸となり、少しでも多くの子どもたちに学校給食を届けたいと思っています。

「RED CUP CAMPAIGN」レポート



国連 WFP では学校給食支援の輪を広げるため、「RED CUP CAMPAIGN」を展開しています。様々な企業が商品にレッドカップのマークを入れ、その売り上げの一部を寄付する取り組みを実施しています。2015年3月から、新たに株式会社テーブルクロスがキャンペーンに参加して下さいました(2016年2月まで)。同社の飲食店検索アプリ「テーブルクロス」から店を予約をすると、店舗からの広告費の一部が国連 WFP に寄付されます。現在進行中、並びに過去の事例はウェブサイト (www.redcup.jp) をご覧下さい。



WFPエッセイコンテスト2015 作品募集



7月1日より、「忘れられない〇〇なごはん」をテーマにエッセイを募集します。世界でおよそ9人に1人が飢えに苦しむ中、国連 WFP は子どもたちに学校給食を提供しています。食事は彼らの命を繋ぐだけでなく、通学を可能にし、勉強の意欲を高め、夢を広げる力となっています。私たちの食事も単に空腹を満たすだけでなく、喜び、悲しみ、感動、癒しなどの思いが詰まった大切な瞬間を生み出します。皆さんの心に残るごはんについて、様々な思いやストーリーをつづってください。一方で、十分な食事ができない途上国の人々へも思いをはせるきっかけになれば幸いです。応募1作品につき、給食3日分が寄付協力企業より寄付され、給食支援に役立てられます。是非ご応募ください。



(c) WFP/Chu Cancan

【実施概要】 ※詳細は、専用ウェブサイトにて。 www.redcup.jp/essay/2015

テーマ	「忘れられない〇〇なごはん」
募集期間	2015年7月1日～9月10日[必着]
部門	1) 小学校部門(4、5、6年生) 2) 中学・高校生部門 3) 18歳以上部門
応募方法	郵送およびオンラインで受付。字数は400字～800字まで。
発表	10月16日に専用ウェブサイトで発表。
お問い合わせ先	WFPエッセイコンテスト事務局 Tel. 03-3980-9030 10:00～12:00 / 13:00～18:00(土日祝日を除く)